

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2006～2009

課題番号：18500462

研究課題名(和文) 女性のパフォーマンス空間としてのアスコーナ

研究課題名(英文) Ascona as a Performance Space for Women

研究代表者

山口 庸子 (YAMAGUCHI YOKO)

名古屋大学・大学院国際言語文化研究科・准教授

研究者番号：00273201

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学、身体教育学

キーワード：独文学、芸術諸学、舞踊、ジェンダー、身体文化、アスコーナ、エルゼ・ラスカー＝シューラー、シャルロット・バラ

1. 研究計画の概要

20世紀前半で最重要の芸術家コロニーの一つであるスイス・アスコーナの「モンテ・ヴェリタ」を取り上げ、女性芸術家による舞踊と他芸術との関わりを研究する。各年度の小テーマは、(1)アスコーナの文化的意義、(2)詩人エルゼ・ラスカー＝シューラー、(3)舞踊家シャルロット・バラ、(4)画家マリアンネ・フォン・ヴェレフキンである。

2. 研究の進捗状況

(1)平成18年度の小テーマ、アスコーナの文化的意義に関しては、同年12月出版の著書『踊る身体のパフォーマンス』の一部で論じ、アナーキズム、神秘主義、改革運動、モデルネの芸術の観点から、「モンテ・ヴェリタ」の歴史的意義を明らかにした。また、平成19年度の小テーマである、エルゼ・ラスカー＝シューラーとアスコーナについても、言及した。本書は、2006年度日本ドイツ学会奨励賞および、第5回日本独文学会賞を受賞した。

(2)平成19年度の小テーマ、詩人のエルゼ・ラスカー＝シューラーに関しては、すでに『踊る身体のパフォーマンス』で言及したほか、「複製技術時代のユダヤ人・女性・詩人——エルゼ・ラスカー＝シューラーのイメージ戦略」という論文にまとめた。また、同年12月独文学会東海支部冬季研究発表会におけるシンポジウム「1890年—1930年のドイツ語圏の文化・芸術の解体と融合」で、「コンセプトとしての〈筆跡画〉エルゼ・ラスカー＝シ

ューラーにおける身体・画像・文字」として発表、および平成20年3月におけるDas 50. Tateshina-Symposium.において、„...meine norwegische Briefschafft [ist] ein Massenlustspiel“: Sozial- und mediengeschichtliche Aspekte bei Else Lasker-Schülers „Briefe nach Norwegen“と題して発表を行った。さらに平成20年10月の国際シンポジウムÜbersetzung und Transformationにおいても、Brief als Medium der Transformation. Else Lasker-Schülers „Briefe nach Norwegen“と題して発表を行った。

(3)平成20年度の小テーマ、「シャルロット・バラに関しては、単著論文「聖なる踊り子—シャルロット・バラの舞踊美学における宗教性」を発表した。

3. 現在までの達成度

② おおむね順調に進展している。

(理由)

現在、計画どおり、上記小テーマの(3)までを終えており、最終年度は(4)に取り組む予定である。

4. 今後の研究の推進方策

最終年度である平成21年度は、予定通り、画家マリアンネ・フォン・ヴェレフキンと舞踊とのかかわりについて発表する予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

- ① 山口庸子 「聖なる踊り子——シャルロット・バラの舞踊美学における宗教性」、『言語文化論集』、第30巻2号、277-291頁、2009年、査読無
- ② 山口庸子 「複製技術時代のユダヤ人・女性・詩人——エルゼ・ラスカー＝シューラーのイメージ戦略」、『ナマール』、12号、2-13頁、2007年、査読無

〔学会発表〕(3件)

- ① Yamaguchi, Yoko: Brief als Medium der Transformation. Else Lasker-Schülers „Briefe nach Norwegen“. Tagung: Übersetzung und Transformation. 平成20年10月18日、早稲田大学
- ② Yamaguchi, Yoko: „...meine norwegische Briefschafft [ist] ein Massenlustspiel“: Sozial- und mediengeschichtliche Aspekte bei Else Lasker-Schülers „Briefe nach Norwegen“ Das 50. Tateshina-Symposion. 平成20年3月24日、アートランドホテル蓼科
- ③ 山口庸子 「複製技術時代のユダヤ人・女性・詩人——エルゼ・ラスカー＝シューラーのイメージ戦略」2007年独文学会東海支部冬季研究発表会 シンポジウム「1890年—1930年のドイツ語圏の文化・芸術の解体と融合」シンポジウム発表 愛知大学車道校舎 平成19年12月1日

〔図書〕(計1件)

山口庸子 『踊る身体の詩学——モデルネの舞踊表象』名古屋大学出版会 2006年、全313頁。

〔その他〕

(受賞)

第5回日本独文学会賞(平成20年)
2006年度日本ドイツ学会奨励賞(平成19年)

(書評等掲載)

読売新聞 2007年2月25日(書評)
中日新聞 2007年1月16日(紹介記事)